

先人の知恵から

1

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

はじめに

ことわざや格言、言い伝えなど、日本に限らず、生活していくうえで先人の知恵に学ぶところは大きいと思う。しかし昨今、新しい言葉や流行はあるものの、先人の知恵として長いこと大事にされてきたことわざ等に意識が向くことが少なくなった。

筆者の年齢が高いために、若い方たちとのギャップがあるのかもしれないが、昔ながらのやり方、考え方に立ち戻ってみるのも良いのではないかと思い、この題材を取り上げることにした。

今回はあ行から次の7つ。

- ・ 挨拶は時の氏神あいさつ うしがみ
- ・ 七首に鏝あいくち つば
- ・ 相手の無い喧嘩は出来ぬけんか
- ・ 愛立てないは祖母育ちあいだ ばば
- ・ 赤子は泣き泣き育つあかこ
- ・ 垢で死んだ者はないあか
- ・ 悪小なるを持ってこれを為すことなかれあくしょう

<挨拶は時の氏神>

喧嘩や争いの際に仲裁してくれる人がいたら、その人は氏神様のように有難い人なので、その人の言う事に従いなさいと言う意味である。この「挨拶」は、一般的には「おはよう」とか「こんばんは」などの儀礼的な言葉や動作をさしているが、元来「仲裁する」という意味もある。実際「挨拶」が直接仲裁になることも多い。

例えば夫婦や友人でも、前日喧嘩をし、翌朝「おはよう」と「挨拶する」ことで仲直りした経験が誰にでもあるだろう。

しかし、コミュニケーションが苦手な子どもたちは、「挨拶する」ことでさえ躊躇する。今声を掛けてよいのか、どのタイミングでどのくらいの声でどの様に挨拶をすればよいのかと迷うからである。その結果、人に聞こえないような声で「おはよう」と言い、返事がなかったと怒ったりする。コミュニケーションが得意な子は挨拶も何の抵抗もなくできている。

仕事で学校に行くと、よく子どもたちが大きな声で挨拶してくれるが、とても気持ちの良いものだ。見知らぬ人であっても、挨拶をすると仲良くなったような気持ちになれる。反対に、知り合いであっても、挨拶が無いと、何か悪いことをしたのだろうかとか不安になるし、関係の悪い者同士は挨拶をしないのでそれと分かる。このように挨拶の力は意識しているよりもずっと大きい。

一方「氏神」は「古代の氏族が共同で祀った祖先神、あるいはその氏と特に縁故のある守護神、またはそれを祀った神社のこと」または、「その地域に住む人々が共同で祀っている神（産土神）のこと」（大辞泉より）である。産土神は、その土地に生まれた者を生涯守ってくれる神様とされる。お宮参りなどに行くのはこうした産土神が祀られている神社が元来の形であった。しかし最近では有名な神社に行くこともある。初詣も同様であった。つまり、氏神は人にとってとても有難い、大切な神様なのである。

挨拶を大事にすることが人と人との関係の潤滑油になることを皆が知っていながら、挨拶をしてくれる人、仲裁をしてくれる人への敬意を払わない。まして、自分が仲裁する側になることへの不安や躊躇は大きい。それは、仲裁に入って逆に被害にあうことがあるからである。挨拶をしてくれることや仲裁をしてくれることへの感謝を今一度考えてみてはどうだろうか。皆がこうした行為に感謝を示すなら、より多くの人々が挨拶や仲裁することへの抵抗が無くなる。良い循環が生まれるだろう。

英語では **Blessed are the peacemakers.**（諍いの調停をするものを

諍えよ）である。

<七首に鏢>

七首とは短い、鞘付きの刃物である。帯刀に付けるような鏢はないし、付けたら使い辛く格好も悪い。そういうことから意味は「不釣り合い、不調和」と言うことである。

税金や公共料金などを滞納し、「お金が無い」と騒いでいる割には、高い車に乗っていたり、大型テレビが居間にデーンと置いてあったりする家がある。食べるのもやっとなと思われる家なのに猫が何匹もいたりする。犬や猫のペットフードや砂などにはお金を掛ける。こんなケースに出会うと、「七首に鏢」と心の中で思う。

はたして自分の身の丈に合った生活をしているだろうか？前述のような不釣り合いが起こる根底には、何でもカード決済やローン簡単に出来るようになったことが一因だろう。家や高等教育など大金を要するものについてはローンも必要であろう。しかし、カード決済は一体いくら使っているのかが見えずらい。一回分の金額はわずかでも、いくつも重なれば多額になる。入ってくるお金と出て行くお金のつり合いが崩れれば当然家計は破たんする。

現金でやり取りをしていた時代には、皆が収入に応じた生活をしていた。今自分が持っているお金がいくらあって、いくら使っても大丈夫か、そんなことを目で見ながら、考えながら買い物をする。欲しいものを買うために、我慢しながら一生懸命お金を貯める。そんな生活をしていれば「七首

に鰐」などと言うことは起こらないだろう。まあ、時には、折角ためたお金をしょうもないものに使ってしまう人もいるが・・・。

国も人も、借金の上に成り立つのではなく、健全な金銭感覚の上に生活を立て直したいものだ。

「32インチのカーナビ」は無意味。匕首に鰐はいらない。余計なものをそぎ落とし、シンプルに生活を立て直してみよう。カードローンは一瞬だが、返済には長期間の苦勞を伴う。契約書にサインをする前に、返済可能な金額化、それが本当に必要なものかも一度考えてみよう。

<相手の無い喧嘩は出来ぬ>

文字通り、相手がいなければ喧嘩にはならないという意味である。

夫婦であれ親子であれ、喧嘩はどこ家庭でもある。夫婦喧嘩は最近激しくなって、包丁を持ち出す、馬乗りになって殴る等、DVに発展しているケースもあるし、男性からのDVだけではなく、女性からのDVも増えている。DVになってしまったら警察介入しかないが、普通の夫婦喧嘩であれば、互いに我慢するか、相手にしないか、どちらかが大人になれば減るだろう。

親子喧嘩でも、思春期後期の子どもとの喧嘩ならいざ知らず、小学生や幼稚園児と本気で喧嘩をしている親も増えた。親が成長していないからでもあるし、子ども達が大人の世界に入り込み過ぎて、対等感を持ってしまっていることも大きく影響しているのかもしれない。勿論本気で相手をしなればならない時もあるだろうが、毎度毎

度繰り返す大喧嘩は誰のためにもならない。加えて子育て中の家庭での夫婦喧嘩も場合によっては虐待になる。

「売られた喧嘩を買わない」、「相手をしていない」というスタンスをとれる大人になるためには、相手と同じレベルにならない事だろう。

但し「ガン無視」や「シカト」ではかえって悪化する。「ちょい無視」くらいで「受け流す」ことが大切。

英語では **It takes two to make a quarrel.**

<愛立てないは祖母育ち>

「愛立てない」という言葉は「わがまま」とか「衝動的」などと言う意味で、祖母に育てられた子はわがままになりやすいと言う意味である。他にも同様の意味で「年寄り育ちは三文安い」など、祖父母に育てられた子は駄目になると言われてきた。

自分の子どもを育てるときは、責任や周りの目などを意識して、つつい口うるさくなり、我儘を許さない雰囲気があるが、孫ともなると見方が全く異なる。まず、文句なしに可愛い。祖父母側もゆとりがあるし、ペースが既に緩やかになっているので待ってあげられるし、イライラしない。小さいのだからと甘くなってしまふ。子どもが自分で出来る事でも手を出してやってしまう。その結果、お殿様・お姫様を作ってしまう。実父母の言うことは聞かず、すぐ祖父母の所に逃げて行き、何かあれば実父母が祖父母に叱られると言うことも起こる。これでは躾しつけなどできないだろう。

最近では祖父母のための子育て講座が設けられるようになった。

昔は風呂上りにはお白湯を飲ませるとか、母乳以外に果汁も飲ませるようにと言われていたが、今は母乳で育てている子の場合、生後6か月までお白湯や果汁は飲ませない。果汁を足したのは栄養状態が悪い時代のビタミン補給の意味だったそうで、今は必要ない。時代が変われば子育ての手法も変わるが祖父母は知らないことも多い。それ故祖父母のための子育て講座が盛況になる。

実の関係であれば祖父母と母親が子育てについて議論も出来るが、嫁姑の関係だと猶^{なほ}まずい。子どもはその関係性を見抜いて、甘い方へと寄っていく。悪循環の中、子どもを挟んで祖父母と父母の対決に発展するなどということも間々ある。

また、幼稚園や小学校の参観日に祖父母が見に来るケースも増えたが、今もって祖父母に育てられている子どもは「我儘」で出来る事もやろうとしないことがある。これを単純に発達障害と言ってしまうようでは困る。

祖父母の下で我儘に育った子が思春期を迎えると、もっと酷いことになる。家庭内暴力になるケースも多い。しかも最初にターゲットにされるのが祖母である。

一方で祖父母がやけに厳しく口うるさい家庭も見受ける。そのような家庭では祖父母の子、つまり子にとっての父母が大人として育ち切れておらず、幾つになっても祖父母に頭が上がらないという状態で、祖父母の過干渉は自分の子どもだけではなく、孫にまで及んでいる。子どもにとっても大変迷惑であるし、父母が自分を守ってくれ

ないと言う思いも出てくる。その結果として家出をしてしまう子どもたちにも出会った。

但し、最近では祖父母だけではなく、父母も甘すぎと言う家庭も増えた。誰でも自分の子や孫は可愛い。子どもや孫のためなら何でもしてあげたいと思うものだ。しかし、「過ぎたるは及ばざるがごとし」という。甘すぎも厳しすぎも子どもにとっては良くない。祖父母も父母も子どもに対し「ほどほど」を心掛け、その子の年齢に応じた行動を自ら試させ、例え失敗しても見守ってあげることが自立につながっていくのだ。

<赤子は泣き泣き育つ>

赤ん坊は泣くのが仕事。泣くのは健康な証拠で泣きながら育っていくという意味。「泣く子は育つ」ということわざもある。

たまに、夜泣きの酷い子というのはいる。本当に母親は大変な思いをする。しかし、夜泣きを悪化させているケースもある。

赤ん坊が泣くとパニックになる母親を見かけるが、空腹とか体調の悪さなど問題が無ければ、デンと構えて待っていればよい。しかし良かれと思ってあれこれすると更に赤ちゃんは泣く、そしてまた母親は不安になる、悪循環である。周囲に気を使うあまり、何とか子どもを泣き止まそうと必死になるからでもある。

穏やかに待つことが出来れば赤ちゃんはいずれ泣き止むだろう。一生泣いている子はいないのである。

今時の子育てでは夜泣きに疲れたら、日中赤ちゃんを一時保育に預けて休んだり、

実家に連れて行って休んだりできる。一休みすれば母親もまた頑張れる。それなのに、ここで、父親や舅姑が「赤ちゃんを預けるなんて哀そう。まだ小さいのに。」とか「関わり方が悪い。」と言うような批難の声を向けるなら、母親は孤立して益々追いつめられ状況悪化を招く。

そんな時は父親や舅姑のことばに左右されず、「立っているものは親でも使え」に従って、使えるものは何でも使うべきだろう。そして「赤子は泣き泣き育つ」と、ゆったり様子を見ていよう。

<垢で死んだ者はない>

この言葉はそう古くない。

風呂に入らず垢だらけになったとしても、それが原因で死んだ者はいないという意味だ。元々は風呂ギライの人の言い訳、或いは強がりである。しかし、今こそこの言葉を贈りたい。

世の中とても清潔で、入浴や朝シャンは毎日と言う家も多い。省エネと言いつつも、使う水の量は半端ない。洗濯物は良い香りを放ち、空気洗浄機がフル稼働。花粉の季節はマスクやめがね、様々なグッズが飛ぶように売れる。

週に1-2回しか入浴しないと体臭を指摘される。みんなが無臭か良い香り化している時代に、人間本来の匂いは嫌われる。おじさんたちは加齢臭を気にして、清潔感に気を付けている。

最近は本当に臭う子、服や顔が汚れている子が少なくなったが居なくなったわけではない。貧困家庭では、当然朝シャンはも

ちろん、入浴も月1回などと言う事もある。服は洗濯していても家全体が臭ってれば効果はない。ネグレクトとしてケースに上がってくることも多い。しかし、きれいなら良いと言うものでもないだろう。耐性と言う事で言えば、むしろ不衛生な家で暮らしている子どもの方が強い。

きれいが悪いわけではないが、きれい過ぎも問題。手には大事な菌もいっぱいいつている。石鹸でしょっちゅう洗ってあらゆる菌を殺してしまっていると、かえって菌に弱くなってしまうそう。

そういう意味では「汚ギャル」は良いのかもしれない。垢で死んだりはしないのだから、神経質すぎないように気を付けたいものだ。

<悪小なるを以てこれを為すことなかれ>

どんなに小さな事柄でも、悪事である以上はしてはならないと言う意味。三国志が出典である。

子どものしたことに対して学校で保護者を呼び出すと、「大したことじゃない」と子どもの悪事に対し、校長室に怒鳴り込んで、逆切れする保護者がいる。

「大したこと」じゃなければ学校は指導できないのか？保護者を呼び出してはいけないのか？学校は保護者に過度に気を使っている。

一方先生方も子どもの前で悪い言葉を使ったり、子どもを馬鹿にしたり、小突いたりして問題になることもある。こうしたことも「大したこと」ではないと事実を蓋をしまっては困る。

若者や私たち大人は、子どもたちの見本として悪事を見せていないだろうか？

色々なところへの落書き、暴走行為、酔った拳句に公共交通内でのトラブルや嘔吐、痰を吐いたり、立小便をしたり、こうした迷惑行為は小さな悪事ではないだろうか？シンガポールでは痰を吐くと罰せられる。日本でも軽犯罪法第1条 26 項で、痰を吐いたり立小便をしたりすることは禁じられている。最悪逮捕、^{こうりゅう}拘留か千円以上1万円未満の罰金刑もありうる。この法律を気にしている人はどのくらいいるだろうか？

車の運転でも、法定速度をきちんと守って走っている人はあまり多くないかもしれない。周りの流れに合わせようように運転していれば、5～10Km/時の速度超過は普通だろう。実際「運転している人がルールを守っていない」と訴える子どもに出会ったこともある。

子どもに注意する前に、大人である我々が大人としての正しい行動をとるべきであろう。思春期の頃はルールの反発したくなるものだし、大人にとっても余り厳しすぎるのは息が詰まる。しかし子どもは年上の人の真似をするものだ。周りの大人が守っていないのに、子どもだけに守れと言うのは理不尽だ。あなたは、子どもたちに堂々と『悪いことは悪い』といえるだろうか？そのために、まずは『大したことじゃない』と思っているルール無視をやめ、自分の行動を律すべきだ。大人の代表として、実践して見せるべきだ。それが子どもたちに対する何よりの指導になるのである。

さて、今回はここまで。次回もお楽しみに。